



「花のある物語」



植物が勢いを増し新緑がまぶしい季節になりました。生命力あふれる緑や花は、私たちに生きる喜びや癒やしを与えてくれます。たまには周りを見渡して四季を感じてみませんか。花や庭によって導かれた人たち、閉ざされた心を開いた子どもたち、庭仕事がしたくなる本などを紹介します。自然のうるおいに心安らぐ時間をどうぞ。
(原真由美)



乃南アサ『六月の雪』文藝春秋 2017

台湾には、^{ランリーフア}欖李花という美しい響きの花がある。6月には雪化粧をしたような白い花をつけることから「六月の雪」とも呼ばれるのだそう。幼少期を台湾で過ごした未来の祖母の思い出の花だ。入院中の祖母にかわり一人思い出を辿る旅へ。花によって導かれた人達とのあたたかい出会いや懸命に生きる人、歴史を知る体験をする。

フィリップ・ピアス『トムは真夜中の庭で』岩波少年文庫 1975

古時計が13時を打ちトムが裏口のドアを開けると……昼間は存在しない美しい庭園が広がっていた。不思議な庭を訪れるうちに昔この邸宅に住んでいた少女ハティと出会い、トムは二つの時間を行き来する。真夜中の庭にさす月の光、春の花が咲き乱れる庭がとてもきれい。



服部千春『花あかりともして』出版ワークス 2017

静枝の父親は、夕顔が白く光るのを見て「これを目印にして帰ってこられる。花あかりや」という言葉を残して出征。父親の無事を祈り花を植え続けるが、1941年、食料にならない農作物は育ててはいけないという「花禁止令」があった。厳しい時代があったことを知ってほしい一冊。



〈緑の力で元気に！〉

バーネット・土屋京子訳『秘密の花園』光文社 2007

湯本香樹実『夏の庭』新潮文庫 2001



〈花に生まれ変わった生命〉

向井愛実『いのちの花』WAVE出版 2014

ひまわりをうえた八人のお母さん『ひまわりのおか』岩崎書店 2012



〈ちょこっとガーデニング〉

榛原昭夫『育てて愉しむ手のひら園芸』山と溪谷社 2014

斉藤吉一『ものぐさガーデニングのススメ』山海堂 2004

〈美しい庭づくり〉

ヘルマン・ヘッセ『庭仕事の愉しみ』草思社 1996

ターシャ・テューダー『最後のことば』白泉社 2009